

---

# ソナチネ

歯車るら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ソナチネ

### 【Nコード】

N8630C

### 【作者名】

歯車るらら

### 【あらすじ】

しゅんしゅんと湯を沸かし続けるやかん、枯れ果てた一輪の花。二人の子どもは、瞳に涙を溜めてそれらを見つめていた。

しゅんしゅんという音を立てて、やかんが水蒸気を吐き出している。

ある晴れた冬のプラットホーム。閉め切られた待合室はそこそこ広く、だが閑散としていた。電車（いや、ここはいまだ汽車であるが）は、三時間に一本しかない。何をするともなく、時間を潰す。外には暖かい陽光とは逆の、冷たい風が吹いている。時折、待合室のガラスをがたがた揺らしていく。これからの不安を胸に抱き、少年と少女が並んで座っていた。

固く握り合った手。そろいのマフラーを首に巻き、それに顎をうずめている。うつろな瞳は、ただやかんをだけ見つめていた。ベンチの足元に置かれたかばんは、いびつに形をとっていた。細い足が、ズボンとスカートから無造作に伸びていた。ぶらぶらと揺れることなく。決して瞳を合わせようとせず、子どもは手だけを固く固くつないでいた。

一輪挿しの花瓶に挿された一輪の花は、ずいぶんと前に枯れ果て、乾いた茶色のオブジェとなっていた。おそらくは、あまり水も貰っていないかったのである。少女の瞳が揺れた。それを合図にするかのように、少年が少女を見やった。瞳にたつぷりと溜められた涙は、長い睫毛により零れようとはしない。身を寄せ合い、互いが互いを慰めあう姿の、何といじらしいことか。寒さに打ち震える子どもの、何と儚いことか。

なるほど、確かに暖かな光景も、漂う悲壮感も、どこかこのプラットホームの存在そのものに似ていた。やがてはなくなるであろうもの。何が夢で、何が現かも分からぬもの。

少女が、少年の頬に頭を摺り寄せる。少年はそれを受け、優しく頬で頭をなげる。一連の動作は猫のそれに似てもいた。だがまったく似てもいなかった。”どこにも行きたくないよ。”まるでそう

言っているかのようで。

再び二人はやかんをだけ見つめ、じっと見つめ、ぴくりとも動かなくなつた。口が真一文字に引き締められ、何を思っているのだろう。暖かな室内、どちらともなく、まぶたを落とすまいとしている。目を閉じれば、今生の別れでも待っているのだろうか。より一層、握る手に力を込め。足元の大きな二つのかばんは、子どもたちを圧迫しているようにも見える。少年が、かばんをちらりと認めては、怯えたように目をそらす。少女にいたっては、もはや視界に入れようともしない。陽だまりの下、そこにだけ夜の闇があるように、少年と少女の表情は暗い。星にも似たはずの瞳に、光はない。

汽笛を鳴らし、汽車がホームに入ってきた。たった一両しかない列車。しゅーという音がして、汽車が停まり、ドアが開く。少年と少女は初めて互いの顔を見、ベンチから降りた。それぞれ小さな手に、不似合いなくらい大きなかばんを持ち、よたよたと待合室から出て行く。いったんかばんを置き、扉に手をかけ、そつと押し開く。その隙間から順に出、少女が振り返って扉を閉める。その瞬間の表情は、”泣いても良いのだよ。”と言ってやりたくなるものだった。またふらふらと重い足取りで汽車に歩み寄り、一段高い汽車に乗り込む。待合室の中以上に不安げな顔をし、二人は車内に消えた。が、やがて窓際の席に決めたらしく、子どもたちは外を眺めだした。この旅立ちの景色を記憶しようというのか。故郷の風景を脳裏に焼き付けようというのか。焦点の定まらぬ瞳が、窓枠いっぱい周囲を見ていた。

汽笛が鳴り、汽車はがたと前置いてから、ゆるゆると滑り出していった。少女が窓に手を当て、口を動かした。少年もまた、窓に手をあて、……

あとに残つたものは、静かなプラットホームに、誰もいなくなつた待合室。暖かい陽光に、冷たい風。ストープにかけられたやかんに、茶色になつた一輪の花。

**（後書き）**

情景描写が大好きです。

内容よりも情景の方に力を入れています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8630c/>

---

ソナチネ

2010年10月10日23時49分発行